



福音讃美歌ジャーナル

福音讃美歌協会

新しい歌を
主に歌え

■巻頭言■「サンプル歌集への期待」

いのちのことは社会長 多胡元喜

私は歌い、ほめ歌を歌いましょう。

私のたましいよ目をさませ。

十弦の琴よ、立琴よ、目をさませ。

私は暁を呼びさましたい。（詩篇 57篇7, 8節）

発会以来4年にわたる研究成果の一端が一冊のサンプル歌集（CD付）として発行されることに期待を寄せています。

時あたかも、日本プロテスタント宣教150周年を祝う年であり、8, 9年に一度の日本伝道会議が開催される時であります。

私たちを取り巻く社会環境は、100年に一度と言われる程の経済危機に遭遇し、暗雲が立ち込めています。人々の心は将来への不安と政治への不信で閉塞状況です。

そのような中で、神の夜明けを告げる賛美の歌声が高らかに上がり、霊的闇を打ち破り「暁を呼び醒ましてしてほしい」と祈っています。

サンプル歌集で紹介される新しい歌を主に捧げる時、会衆に喜びと確信が与えられますように。歌い継がれてきた歌が改訳・改編されて紹介される時、新しい感動をもって歌えますように。

賛美は教会で会衆と共に歌うものであると同時に、個人的な信仰生活の中で自らを震い立たせる力となり、慰めとなり、喜びとなるものです。

サンプル歌集が出版されると、個人でも、教会でも、いのちのことは社のチャペルでも早速に歌いたいと思います。賛美はクリスチャンライフを豊かにし、信仰生活を生き生きとさせてくれます。日毎のみことばの養いと共に、賛美によって、奉仕や宣教の場に遣わされたいと思います。

JEACSの働きを通して次のことを期待します。

1. 日本の教会がシンギング・チャーチとなるように。
2. 神の民が真の礼拝者として主を賛えるように。
3. 賛美の祝福により、日本に宣教の夜明けが来るように。

日本プロテスタント宣教100周年の後「聖書信仰運動」（JPC）が誕生し、活発化したように、150周年の祝典の後には「福音讃美歌協会」（JEACS）が盛り上がり、日本のキリスト教界に新しい神のいぶきが注がれますよう祈っています。

「文化の違いーアメリカのミエン族とタイのミエン族の仕事の仕方」

J E C A 糸井福音キリスト教会 有澤達朗・たまみ

◆◆タイ国ミエン族ー米国ミエン族 合同讃美歌改訂委員会◆◆

1999年6月12～19日、カリフォルニア州リッチモンドのミエン族教会で、タイとアメリカ合同の讃美歌改訂委員会が開かれた。ワシントン、オレゴン、カリフォルニア各州のミエン族教会からの委員14人とタイ・ミエン族教会協議会からの代表として私たち夫婦、総勢16人が集まった。タイ式とアメリカ式の違いが明らかになった。

◆◆アメリカ化したミエン族◆◆

1975年、「インドシナ難民」となったミエン族がラオスからタイの難民キャンプ経由で、アメリカに渡った。今回、讃美歌改訂委員16人のうち12人は、第二次インドシナ戦争当時20代であり、ラオスの内戦、すなわちアメリカの爆撃を逃れて命拾った世代だ。

アメリカ社会で生活するミエン族はアメリカ的にならざるをえない。目標を立て期限までに終わらせ結果を出す。短期集中型、競争社会の原理、数値目標を掲げ目標達成に貢献しない事や人を排除する成果主義の影響を受けた者もいた。反対に、タイ側の委員たちは時間をかけた丁寧な質の良い仕事を求める。集まるときに集まり、できるところまでやり、無理はしない。しかし、アメリカのミエン族は1999年中に改訂を完成させ、2000年に印刷・出版する、と決めていた。

◆◆アメリカ型の仕事◆◆

改訂作業は朝8時から夜10時まで、時には深夜2時までになることもあった。仕事が「アメリカ的」という場合、悪いことばかりではない。一人一人の得意分野に従って分業する。スペシャリストを尊敬する気風だ。歌ってみて、字余りや字足らずがないかをチェックする時は、タイ人牧師夫

人で委員に加わったトゥアンチャイ夫人とたまみが意見を述べる。二人ともネイティブのミエン語話者ではないが、音楽面のアドバイスに皆、真剣に耳を傾けてくれる。

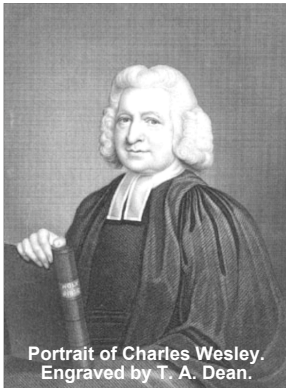
また異なる同義語からどれを選択するかに関しては年長者の意見を聞き、歌詞の内容が聖書的かどうかを確かめる時には、アメリカの神学校を卒業したミエン族の牧師がディスカッションを導く。

さて私の役割は？ スピードを旨とするこの会議で、アメリカ生活の長い14人の委員を相手に、ひたすら進行を引き止めること。「ヤオジヤム（私のミエン名）よ。ミエン語の質ではアメリカに妥協するな」とタイの委員会から言われて来ていた。英語の語順や文法の影響を受けたミエン語を、アメリカ版の歌詞から取り除くことに神経を使った。このような現象にはアメリカ生活の長いミエン族は気がついていない。

例えば、本来のミエン語では、[今日] [私達は] [にいる] [リッチモンド] [会議をしている] 《時の副詞 動作主 動詞 場所 動詞》という語順だが、アメリカのミエン族は、[今日] [私達は] [会議をしている] [で] [リッチモンド] 《時の副詞 動作主 動詞 前置詞 場所》というようになった。ミエン語の特色である動詞（句）連鎖が衰退し、*yiem* [にいる] という動詞から *yiem* [で] という前置詞的な用法が派生するという「文法化」が起き始め、前置詞句が文の後方へ移動するという英語の特色に引きずられて語順の変化が起きている。このような例が見過ごされるたびに、「チョット待って！」とヤオジヤム。「あ、またヤオジヤムだ」と止まってくれるが、それが1時間に2回くらい、朝から夜まで繰り返されると、それはもう戦いのようでもあった。

しかし喧嘩になることはなく、笑いが多かった。メロディー優先で声調を犠牲にすると、意味が変わる。「ミェン」という語を下降声調で言う
と「人」という意味、高い声調で発音すると「お
ばけ、悪霊」という意味になるなど。他にもとん

でもない意味に変わってしまう例があり、涙が出
るほど皆で笑い、会議続行不可能となることもし
ばしば。国籍や背景を異にする者たちが共に主に
仕えることができる恵みを、爆笑の中で確認する
幸せな時だった。(続く)



連載 チャールズ・ウェスレー—— (1) 詩と旋律の劇的な出会い

インマヌエル高津教会牧師・藤本満

チャールズ・ウェスレー (1707-1788) は「偉大な讃美歌作者」として教会
歴史にその名が刻まれています。彼は、18世紀英国で、兄ジョン・ウェスレー
(1703-1791) と共にメソジストと呼ばれる信仰復興運動を率いました。やが
てメソジスト教会が誕生し、その働きは世界に及びます。加えてチャールズの
讃美歌は、教派を超えて歌われ、広くキリスト教会全体の遺産となります。ち
なみに、日本の『讃美歌』には彼の讃美歌が14曲、『新聖歌』には11曲収めら
れていて、数の上ではアイザック・ワッツ (1674-1748) と並んでトップです。

チャールズの偉大な業績は、単純に詩の数をあげても理解できます。出版された詩だけでも4500。
1780年に1026曲を取めたメソジスト讃美歌集 (A Collection of Hymns, for the Use of the People
Called Methodists) が出版されますが、そのほとんどが彼の作品です。

これほど偉大な讃美歌詩人のチャールズですが、作曲には手をつけませんでした。代わりに彼は歌詞に
載せることが可能な旋律パターンを指示しました。会衆はそれに合わせて、幅広いジャンルから既存の旋
律を選択して歌うことができました。今日でも「天なる喜び」 (Love Divine, All Loves Excelling) や
「わが魂を」 (Jesus Lover of My Soul) が複数の旋律で歌われていることが理解できます。(編注:『讃
美歌21』475、476番、『讃美歌』273番AB、『インマヌエル讃美歌』60～64番などを参照。)

チャールズの讃美歌に独特な響きがあるとしたら、詩の言葉にあると言わなければなりません。しかし
同時に、その詩が持ち味を最大限に引き出す「曲」と出会う時、一つの讃美歌が完成したと言えるので
しょう。チャールズと親交があったヘンデル (1685-1759) が彼の詩に合わせて三つの曲を贈ったことも
あります。

詩とメロディーとの劇的な出会いは、クリスマスの代表的な讃美歌「天にはさかえ」 (Hark! the Her-
ald Angels Sing) に見ることができます。チャールズ作のこの讃美歌は、メンデルスゾーン (1809-
1847) による旋律で歌われてきました。しかし、その旋律はもともと活版印刷を発明したグーテンベルグ
(1398頃-1463) の記念祭 (1840) のために作られたものです。オリジナルの歌詞では、「御使いたちの
たたうる歌を (『讃美歌』98番1節)」の旋律上で、「グーテンベルグ グーテンベルグ」と混声合
唱が同一メロディーで二度高らかに歌います。メンデルスゾーンは、この曲は讃美歌には不向きであると
言い残しています。

しかし、この曲を耳にした英国の音楽家ウィリアム・カミングス (1831-1915) は、即座に「天にはさ
かえ」の旋律として採用します。それ以前には、「天にはさかえ」は「アメージング・グレース」の旋律
で歌われたこともあったようです。しかし、その後は、メンデルスゾーンの曲に定着します。それは、こ
の曲は宗教曲には不向きであると言いつつ残したメンデルスゾーンの想像と期待をはるかに越えるベストマッ
チングでした。

◆新しい讃美歌の試みーその3◆◇◆

イムマヌエル京都西キリスト教会 吉村和記

今回、ご紹介する讃美歌は、使徒の働き10章36節の聖句を基にして作られた「すべての人の主」です。作者の塚田雅子さん（JECA大月キリスト教会員）は作詞作曲を手がける方で、2004年に同名の歌集を出版しておられます。まだまだ決して多いとは言えない日本のオリジナル曲のことを思う時、このような歌集が出されていくことは、とてもうれしい限りです。

すべての人の主（使徒10:36）

作詞・作曲：塚田雅子

主 が つ く ら れ た す ば ら し い こ の せ か い そ こ に
み た ま を み た し ほ ん と う の し あ わ せ を み ち び

す む ひ と り ひ と り 主 は あ い さ れ て い る
い て ひ と つ ひ と つ お し え て く だ さ る 主

ゆ た か に え い え ん の い の ち も つ た め つ み の
主 に し

ゆ る し あ た え ら れ る た だ ひ と り の か た
た が う ち か ら あ た え と も に あ ゆ ま れ る

イエ ス キ リ ス ト は す べ て の ひ と の 主 で す

イエ ス キ リ ス ト は す べ て の ひ と の 主 で す

さて、今回取り上げた「すべての人の主」を初め、塚田さんの作品は透明感あふれるメロディラインで、誰もが歌えるシンプルな楽曲です。前述の歌集の巻頭言に、ご自身が曲作りに関して「日本語の持つイントネーションやリズムを大切にしている」と書いておられるように、しばしば翻訳された讃美歌に感じられるような違和感がなく、詩と曲が自然にマッチしています。特に、「会衆が歌いやすくあるために、音域を考慮し、複雑なリズムの表現を避けるように心がけている」という細やかな気遣いが、その讃美歌を聴いたり、歌ったりする時に心地良く心に入り込んでくる要因となっているように思います。

しかし、筆者はただそれが単なる「心地良さ」に終わらず、実際に声に出して讃美していくうちに、自らの信仰が強められていくのを感じます。その理由はどこにあるのかと考えていた時、塚田さんの作品がもともと「み言葉が私たちの身近に親しんで口ずさめるように」との願いをもって作られたからだと知りました。塚田さんはご自分の作る賛美歌のことを次のように述べておられます。「教会学校の子供たちと共にみことばそのものを味わい、更に深く考え、自然に生きた知識として、みことばが心に根付いていくことを願って創り始めた讃美です。」

確かに『すべての人の主』についても、歌詞が子供でもわかるような表現になっており、じっくり味わっていくと、聖句の背景となったペテロの開眼された新たな信仰の境地がこちらにも実感として伝わってきます。この讃美歌の最後にある「イエス・キリストはすべての人の主です」とは、ペテロがコルネリオとの出会いに基づいて体験した感動を思わず口にして表現した言葉ですが、その言葉につけられた美しいメロディを繰り返し讃美するうちに、私たち自身の強い確信となってきます。この「すべての人の主」は、讃美全体を通して主をほめたたえ、同時に、歌詞を通してみことばも心に蓄えられる素晴らしい讃美歌です。ぜひ、皆さんも覚えてください。



新刊紹介『礼拝における讃美』 6月1日発売予定

福音讃美歌協会 (JEACS) 編 いのちのことば社

本書は、福音讃美歌協会で行っている新しい讃美歌集の準備作業の一つとして企画されました。福音派諸教会の中でも、礼拝の形式や讃美のあり方は多様です。また、リタージュカルムーブメントやプレイズ&ワーシップの影響もあり、日本の教会の礼拝と讃美をめぐる環境にも、近年、大きな変化が見られるようになりました。いろいろな教派やグループから相次いで讃美歌集が発行され、キリスト教書店に礼拝関係の有益な書物が数多く並ぶようになったこともその一つでしょう。実際に、礼拝で使う讃美歌集を変えた教会や、礼拝の順序や形態を変えた教会

の取り組みも耳にします。また、具体的な変更はなくても、多くの教会やクリスチャンが、礼拝と讃美について深く考え、学んでおられることでしょう。

礼拝の形と讃美のあり方は切り離すことのできないものです。福音讃美歌協会では、新しい讃美歌集の編纂に取り組もうとする中で、礼拝と讃美についての多様性を福音派諸教会の実状に沿って整理し理解する必要に迫られ、そこから本書の構想が生まれました。

本書の構成は、まず、聖書から総論的に礼拝と讃美について論じ、次いで、プロテスタントの礼拝と讃美について大きな影響を与えた3者、ルター、カルヴァン、ウェスレー兄弟について論じ、さらに、教派を越えて広がっているコンテンポラリーな流れについて論じ、最後に、私たち日本の教会の歴史について論じています。この構成自体、非常に限られたものではありませんが、不十分ながらも礼拝と讃美についての福音派諸教会の関心と現状について、その輪郭を表すことができたのではないかと考えています。

本書は、讃美歌集編纂の必要の中から生まれたものではありませんが、ここで扱われている問題は、礼拝と讃美をささげるすべてのクリスチャンにとって大切な事柄です。本書が、礼拝と讃美について考え、より良い礼拝とより良い讃美をささげるために、何らかの助けになることがあるならば、これに勝る幸いはありません。(本書「あとがき」より)

❖ INFORMATION ❖

第9回 福音讃美歌協会 教会音楽セミナー

「教会の霊性の源～詩篇歌唱の今と昔」

■入場無料■（席上献金有り）

■日時：2009年5月12日（火）19:00-20:30

■場所：お茶の水クリスチャンセンター 8階チャペル

■お話し：井上義（同盟基督教団・等々力教会牧師、福音讃美歌協会・讃美歌委員長）

『礼拝における讃美』6月1日発売予定

福音讃美歌協会編 いのちのことば社発行 予価1050円（税込）

- | | |
|--------------------------|------|
| ◆「福音主義と礼拝讃美」 | 遠藤勝信 |
| ◆「ルターにおける礼拝と讃美」 | 高橋秀典 |
| ◆「カルヴァンにおける礼拝と讃美」 | 朝岡勝 |
| ◆「ウェスレーにおける礼拝と讃美」 | 薦田直毅 |
| ◆「コンテンポラリー・ワーシップにおける讃美」 | 堀井栄治 |
| ◆「日本のプロテスタント教会における礼拝と讃美」 | 中山信児 |

『サンプル歌集（仮称）』9月発売予定

■20曲収録、全曲CD付、福音讃美歌協会讃美歌委員会編、いのちのことば社

■「福音讃美歌ジャーナル・特別号」として「新しい讃美歌集」（2011年末発行予定）の「目次と収録予定曲一覧（案）」を同時発行。

■日本伝道会議参加者には贈呈予定。

第五回日本伝道会議 2009年9月21～24日（月～木）

■分科会：「サンプル歌集」の収録曲を、お話しや演奏を交えて紹介します。

■ブース：福音讃美歌協会の出版物の販売、配布などがあります。是非ご利用ください。

♪ 理事、讃美歌委員をお招きください

福音讃美歌協会の理事、讃美歌委員を、教会の諸集会にお招きください。讃美についてのみことばの学び、実際の研修や講習などに、ぜひお役立てください。また、福音讃美歌協会の働きについて紹介と報告をさせていただければ感謝です。

- ・奉仕謝礼は、全て福音讃美歌協会への献金として受け取らせていただきます。
- ・日程と内容等について、ご希望をお知らせください。当方で調整の上、改めてご連絡させていただきます。但し、場合によっては、ご希望に添えない場合がありますことをご了承ください。
- ・お問い合わせ：中山（TEL&FAX 044-977-8053、電子メール info@jeacs.org）

♪ 讃美歌委員会・協力者募集

福音讃美歌協会の事業の一つであります讃美歌集編纂につきまして、作詞・翻訳・作曲・編曲・楽譜作成（フィナーレ使用）、楽譜や歌詞の校正等でご協力いただける方を募集しております。

- ・お問い合わせ：井上（info@jeacs.org）

♪ 投稿募集

「福音讃美歌ジャーナル」への投稿を募集いたします。福音讃美歌協会へのご意見ご希望、讃美についての思い、教会での取り組みなどをお寄せください。

原稿は600字以内。電子メールにテキスト書類添付で（info@jeacs.org）までお送りください。メールのタイトルは「ジャーナル投稿」とし、本文に住所、氏名、電話番号、所属教会を明記してください。次々号（2010年5月発行予定）掲載分は、2010年3月末日締切です。掲載誌の発送をもって採否の発表に代えさせていただきます。

＊ 会 計 報 告 ＊

2008年4月-2009年3月

■収入の部■

科 目	2008年度予算案	2008年度実績
会員負担金	1,210,000	1,180,000
正会員	750,000	750,000
準会員	60,000	60,000
賛助会員	400,000	370,000
自由献金	230,000	400,827
その他	0	571
当年度収入合計（A）	1,440,000	1,581,398
前年度繰越金	700,827	700,827
収入合計（B）	2,140,827	2,282,225

■支出の部■

科 目	2008年度予算案	2008年度実績
理事会費	67,000	52,620
委員会費	160,000	128,135
人件費	240,000	240,000
事務費	90,000	57,011
ジャーナル発行費	310,000	330,560
カンファレンス開催費	220,000	206,109
総会開催費	40,000	20,206
予備費	100,000	0
積立基金	200,000	200,000
当年度支出合計（C）	1,427,000	1,234,641
当年度収支差額（A） - （C）	13,000	346,757
繰越額／残高 （B） - （C）	713,827	1,047,584

【賛助会費納入者】（2008年4月-2009年3月）

上作延キリスト教会、グレース・コミュニティ、ぶどうの樹キリスト教会、栗橋キリスト教会、栄福音キリスト教会、キリスト教朝顔教会、浜田山キリスト教会、世田谷中央教会、菅生キリスト教会、鶴ヶ島聖書教会、青梅キリスト教会（11教会）

土岐はるみ、石川岩夫、稲垣博史・緋紗子、刑部照美、高橋和江、安西仁美、斎藤眞木子、竹中久三、竹中節子、村松容子、神尾鋼行、大島章義、石田美子、樋口邦彦、神谷聰子、岩下シノブ、三木智枝子、大滝忠子、バークマン・ディビット、田村勉、横倉知恵、今中霽子、辻喜男、高尾由希子、中山信児、山田洋一（27件）

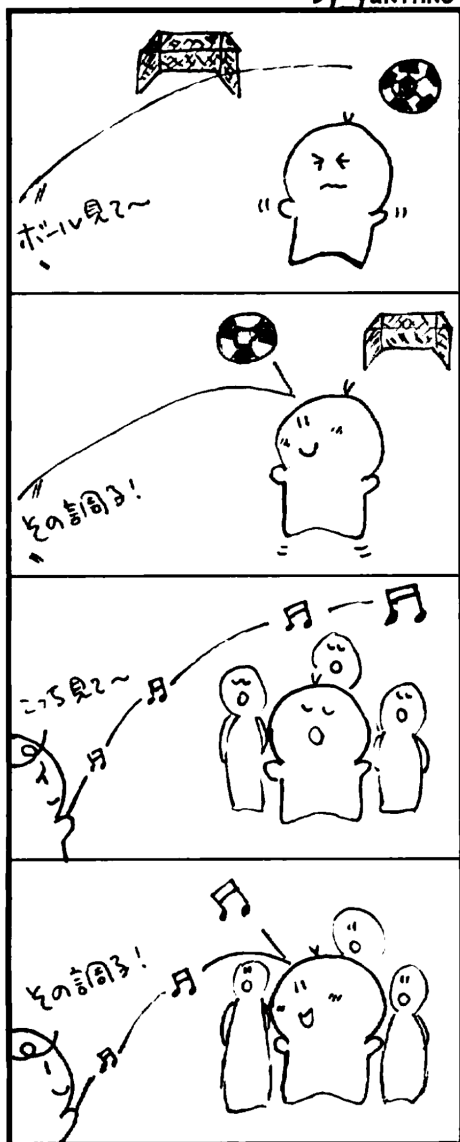
【献金者】（2008年4月-2009年3月）

こどもの国キリスト教会、武蔵台キリスト福音教会、川越聖書教会教会員、久居聖書教会、新発田キリスト教会、大塚和枝、大滝忠子、小池宏明、匿名、教会訪問・セミナー献金：菅生キリスト教会（6月）、川越聖書教会（9月）、JECA関東三地区教職者会（11月）

お名前の掲載を希望されない場合は、通信欄に匿名希望とお書きくださるか、メール（info@jeacs.org）で、その旨をお知らせください。

ハレルヤほうや

by yukinko



福音讃美歌協会・会員募集

◇会員の種別は、以下の三種類です。

正会員（教会・教団・教派等）、準会員（超教派団体・グループ等）、賛助会員（趣旨に賛同し支援してくださる教会、個人等）

◇賛助会員のお申し込みは、入会申込書をご請求いただき、必要事項をご記入の上、郵送またはFAXでお送りください。承認後、年会費のお振込みにより入会が完了致します。

◇正会員、準会員のお申し込みにつきましては、協会へ直接お問い合わせください。

◆郵便振替口座◆

番号 00220-1-95127
名称 福音讃美歌協会

◆郵便貯金口座（ばるる）◆

番号 10500-82654721
名称 福音讃美歌協会

◆銀行口座◆

みずほ銀行 ユーカリが丘支店
普通預金 口座番号 1604668
名称 福音讃美歌協会

福音讃美歌協会 JEACS

Japan Evangelical Association for Congregational Singing

〒154-0015東京都世田谷区桜新町1-14-22

世田谷中央教会内

TEL 03-3428-2388 FAX 03-3428-2380

ホームページ <http://jeacs.org/> メール info@jeacs.org

From Editor

編集後記

今、福音讃美歌協会では、今年9月の発行に向けて、『サンプル歌集（仮称）』の編集と付録CDの録音に取り組んでいます。

この歌集に収録を予定しているのは、チャールズ・ウェスレーやファニー・クロスビー等の古典を初めとして、ヒム・エクスプロージョンの作家たちの作品、コンテンポラリーな作品、日本語によるオリジナル作品や新作など、全部で20曲です。

CDの演奏形態もオルガン、ピアノ、ギターなどバラエティに富んでいます。いすれも、礼拝で会衆がともに声を合わせて歌うことを考えて、選ばれ、演奏されています。

歌詞の面では、みことばに忠実であること、福音的であることを大切に、分かりやすく、美しい表現を心がけました。

『サンプル歌集（仮称）』と同時に、2011年の発行を目指している本格的な讃美歌集の「目次と収録希望曲のリスト」も提供する予定です。様々な意見をお寄せいただきたいと思います。

9月の第五回日本伝道会議にあわせて発行される、この『サンプル歌集』、ぜひ、手にとって、見て、歌ってください。（な）